

はじめに

当研究所は、市民の健康と生活を守ることを目的として、昭和 45 年 10 月に発足した衛生試験所を前身とし、平成 9 年 5 月に拡充・強化して設置されました。研究所としてスタートするにあたっては、環境及び保健衛生に関する情報及び学習の場「まもる一む福岡」を新設し、市民が直接見て、触って、体験できる情報の発信・提供を行っているところです。

設置以来 40 有余年にわたり、一貫して環境及び保健衛生に関する試験検査、調査研究、情報の発信・提供等を行い、研究所としてのミッションの遂行に努めるとともに、保健・環境行政を科学的視点からサポートしてまいりました。

現在、地方の中核的試験研究機関である研究所には広く健康危機管理に対する役割がますます求められています。

一例を挙げれば、全国的な風しんの大流行やマダニが媒介する重症熱性血小板減少症候群（SFTS）、鳥インフルエンザ A（H7N9）、現在ではデング熱やエボラ出血熱などがあり、また冷凍食品への農薬の混入事件などがあります。さらに、微小粒子状物質（PM_{2.5}）による大気汚染や熱中症などがあります。

微生物、理化学、環境科学など研究所の全部門で健康危機管理対応が求められ、今後ますます対応すべき事案は増加するばかりです。これに伴い、市民の安全と安心に対するニーズに対応する試験検査や調査研究を進めていくことも必要になっています。

このようなことから、健康危機管理に重要な役割を担う研究所として不断に検査技術の維持・向上を図るとともに、研究所間の連携を図りながら迅速かつ的確な検査体制のより一層の充実を進めています。

研究所を取りまく環境は厳しい状況下にあります。今後とも、選択と集中を図りながら、環境・保健衛生に係る行政施策を科学的側面から支える福岡市の中核的試験研究機関として、市民の健康と生命を守り、安心して暮らせる環境を確保するため、職員一同、自己研鑽に努めるとともに、市民や行政にさらに見える研究所としての情報発信機能の強化を行い、その使命を果たしていく所存です。

この所報は、平成 25 年度の業務の成果を取りまとめたものであります。ご高覧いただき、忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

平成 26 年 9 月

福岡市保健環境研究所

所長 藤本 正典